

学校・家庭・地域の総掛かりで「豊かな心」を育成する体制の構築 ～中央学園「サポート隊」の取組～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
宗像市立 中央中学校	宗像の郷「中央学園」学園運営協議会 令和元年5月31日 設置	地域学校協働活動推進員 2名 2名 地域コーディネーター 0名 0名	中央学園 「サポート隊」
宗像市立 東郷小学校・南郷小学校	宗像の郷「中央学園」学園運営協議会 令和元年5月31日 設置	地域学校協働活動推進員 2名 2名 地域コーディネーター 0名 0名	中央学園 「サポート隊」



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

宗像の郷「中央学園」は不登校、生徒指導上の諸課題に対し、児童生徒の心の豊かさを育てていくことが必要であり、それには学校・家庭・地域の総掛かりの教育が不可欠であると考えた。令和元年度に立ち上げた中央学園運営協議会において、アンケート結果等の子供の実態や学校・家庭・地域の願いをもとに「自主・自立」「自他尊重」の心を育成することを重点に設定。共有の目標を達成するための組織体制、活動の在り方について熟議を重ね、社会総掛かりの教育の実現を目指している。

目標や目指す姿(学校)

目標を持ち、自ら考え、行動し、ねばり強くやり通す、心豊かで健康な子供の育成

目標や目指す姿(地域)

ふるさとを愛し、地域・社会に進んで貢献する子供の育成



宗像の郷「中央学園」学園運営協議会 の特徴

委員の立場や属性等

- | | |
|---|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 地域有識者 | <input type="checkbox"/> 学園校長 |
| <input type="checkbox"/> 各校PTA代表 | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 各コミュニティ運営協議会代表 | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動推進員 | など、計 17名で構成 |
| <input type="checkbox"/> 学識経験者(大学教員) | 年間平均 6回程度開催 |

効果的な運営の工夫

学校、家庭、地域の3者で構成する学園運営協議会では、共通目標、役割、協働の取組について熟議を行っているが、運営では以下の工夫をしている。
○児童生徒の学習の様子を参観するモニター会を実施。評価項目を設け事前に伝えることで、一定の視点をもった参観・評価ができ、また、参観で捉えた子の実態を運営協議会の熟議に繋げられる。
○運営協議会前に学園コーディネーター等で構成される役員会を行い、会の方針や内容を協議し、委員には事前に資料を送付することで考えをまとめて会議に参加している。



特徴的な取組と成果・効果

取組

学園運営協議会

学園の一つの課題「自転車通学の事故防止」について学園運営協議会で熟議を行い、学園合同の自転車教室を東郷・南郷の両コミュニティ運営協議会が協力して実施することを発意。また、学園運営協議会で「進んで、みんなで、最後まで」というスローガンをつくり、目標達成に向け、3者の意識統一を図った。



掲示された学園のスローガン、子供が作成したロゴマーク

地域学校協働活動

自転車通学が始まる中学校入学に向け、6年生児童の合同自転車教室を行った。地域が主体となり、PTA、学校等多くの人が関り実施することで、運転マナーの向上だけでなく、学校間、地域間の交流も深まり、また、中学生が小学生に助言を行う等、活躍の場にもなった。



新中1を対象とした学園合同自転車教室

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

学園運営協議会で共通理解した目標のための取組を円滑に進めるために地域学校協働活動本部となる「中央学園『サポート隊』」を組織して地域学校協働活動推進員が運営を行っている。人材バンクとしての機能を果たし、学校・家庭・地域に呼びかけ、児童生徒もジュニアサポート隊として参加するなど、81名の有志で構成している。活動を行う際には、各学校や学園全体と地域を繋ぐ学園コーディネーター(学校に所属)と地域学校協働活動推進員が連絡・調整を行いながら学校の活動を支援したり、協働したりという仕組みを構築している。

成果・効果

- ◆学校・家庭・地域が協働して子供に関わる活動の質と量が高まり、子供の心の育成を図ることができ、生徒指導上の諸課題の解決に繋がっている。これは、学園運営協議会で目標を共有し、各地域学校協働活動へと繋げていることの効果であると考え。
- ◆子供が地域の人・もの・ことと関わりながら活動を行う学習が増えたことで、社会に開かれた教育課程の中で、今求められる資質・能力を身に付けることに繋がっている。これは、コミュニティ・スクールを推進していく中で、学校と家庭・地域が繋がりを、地域のニーズを踏まえながら教材開発等を進めることができるようになったからであると考え。
- ◆東郷小学校区の地域の方が南郷小学校の教育活動に参加(令和4年度延べ人数:6名)、南郷小学校区の地域の方が東郷小学校の教育活動に参加(令和4年度延べ人数:19名)するといった小学校区の垣根を越えて「学園の子供をみんなで育てよう」という意識が高まっている。また、それぞれのコミュニティ運営協議会が情報交換を行う機会が増え、各活動の充実や繋がりの深まりが効果として現れている。これは、中学校区でコミュニティ・スクールを推進し、地域学校協働本部である「サポート隊」の結成と実働により、「学校を核とした地域づくり」が進んでいるからであると考え。